

と、昼食後、静かにする為に、いつも讃美歌や子守歌を歌つてやる習慣になつてゐるので、この時に、未完成のままになつていて、た歌を、二度ほど歌つてみたところ、ヒヨ

シと最後のメロディーが子どもの方からとび出たので、やつとのことで、完成することができた。

初めから歌つてやると、前には無関心だつた子どもも大喜びであった。

子どもたちは、どの歌よりも、気に入つたらしく、部屋に入ると、誰からともなく歌い、お誕生会には他のクラスの子どもたちの方で歌い、好評を拍した。

これが、もし、経験のあつたすぐ後だつたならば、もっとくらくに、そしてもつと良いものを作ることが出来たにちがいない。

この子どもたちには、もう一度の機会を与えることが出来ずに、卒業を迎えてしまつたが、でも、保育の経験に浅い私には大きい励みであった。

この次、受け持つ子どもたちには、この経験を生かして、もっと早い時期に、もつとたくさん、機会を与えてやりたいと思つてゐる。

そして、子どもの持つ豊かな創造性を、音楽の面でも、のばしてやりたいと願つてゐる。
(仙台・長町幼稚園)

保育効果をあげるために

テレビをどのように利用するか

八坂 富子

昨年度から「放送教育」にとりくんで今年は第二年目を迎えた。本年は問題を「テ

レビ」にしほつて一年間実践をした、ささやかな研究の一端をここに報告する。

研究の手順 1、実態調査 2、実践記録

3、テレビ視聴による保育効果——表現活動を通じての考察

実態調査（家庭調査）

昨秋文部省が全国的にテレビの影響調査を実施したので、その方法と内容によつて、本園の園児ならびに県内の研究園に協力を願つて資料を収集し、その結果を統計処理してみた。特にテレビは、その恩恵の受け方に地方差が著しいので広島県内の幼児の場合に範囲を限定した。

1、調査対象は家にテレビのある子どもだけで、質問紙を渡し、記入者は幼児の父母である。

未だ当地方では家でテレビの見られる子どもは全体の約二〇%である。したがつて幼稚園で見るテレビに対して非常に新鮮な感覚でひきつけられる。

3、幼児の好む番組並びにその理由

娛樂性、生活性、道徳性、変化性、冒險性の順位で選ばれている。

表のようである。

せ、その好む理由について、十六の選択肢の中から三つの理由を選び出すと第一

4、幼児の生活に及ぼした影響

第二表は、生活習慣の上にあらわれた

第一 表

理 由	頻 度	百分 率
こつけい喜劇的である	六〇	二一・七
子どもの生活からとつてゐる	四〇	一四・四
正義感や勇氣を与えてくれる	三四	一二・三
変化がある	二七	九・八
活劇が多い（冒険、スリル）	三二	八・三
現実の生活からとつてゐる	一八	六・九
情操を育ててくれる	一五	五・四
未知の世界がわかる	一二	四・〇
主人公（役者）が好き、強い	一一	四・〇
科学の知識が広まる	一〇	三・六
主人公の演技がうまい	九	三・二
世間の様子がわかる	八	三・〇
主人公が正しい	三	一・〇
〃 美しい	一	〇・二
怪奇的である	一	〇・二
その他	六	二・〇
合 計	二七六	一〇〇・〇

第三 表

健 康面 の 变 化	頻 度	百分 率
睡眠時間がへった	二九	二五・二
熟睡しない	二	一・七
食事の時よくかまない	二七	二三・四
目が悪くなつた	五	四・三
合計（調査人員一一五名中）	六三	五四・六

変化を父母から見て十三の選択肢から三つずつ選び出したものである。

第三表の健康面については四つの項目について該当するものののみについて記入してもらったものの集計である。したがつて百分率は全家庭に対する割合であつて、良くない点の変化が五四%に達している。

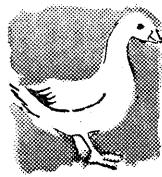
これらの調査の結果から考えられることは、テレビが子どもの生活に与える影響は予想外に大きいということである。

それにもかかわらず、家庭では見せ方や内容の選択について教育的配慮がされていない。性格形成の途上にある幼児にとっては、どうしても親や教師の行き届いた配慮が必要であり、更に幼稚園教育の上では積極的な利用によって、より効果をあげることが考えられる。

テレビの視聴の実際を幼児の状況と教師の指導面から毎回記録し、問題のありかを発見し指導の手がかりとするために

実践記録

第五表		第四表		第三表	
桃組(四才児)	頻度	菊組(五才児)	頻度	菊組(五才児)	頻度
○見たことについて話し合う。	二〇	○見たことについて話し合う。	二二	○さわいでいる子どもにそっと注意する。	三
○善惡の判断が出来るようになる。	一三	○善惡の判断をさせてみる。	一九	○むずかしいことばや不明瞭な画面について説明を加える。	三
○ゲームのルールや勝負を理解させる。	一〇	○劇の成り行きを想像し合って次への期待を持たせる。	一七	○テレビのおばさんに返事したり、話しかけたりする。	三
○幼児の日々の生活と較べて考えさせる。	一〇	○テレビに出でた歌をうたう。	一七	○画面にあらわれた心情に反応してことばや身ぶりで同情したり応援したり攻撃したりする。(人形劇)	三
○弱い者をいたわるやさしい心情に気づかせる。	一〇	○見たことについて絵画表現をする。	一七	○わからないことを質問する。	三
○友達に叩かれてもすぐ泣かない強い子になろう。	一〇	○「こっこ遊びをする。(交通整理・白雪姫・おやゆび姫・桃太郎など)	一七		
○画面の子どもが作っているきまりを理解させる。	一〇	○制作をする(旗づくり・人形づくり)	一九		
○幼児の日常生活の中にテレビで見た良い行動が再現された時とりあげてやる。	一〇	○リズム遊びをする(玩具のマーチ・穴の中の熊・遊園地・でんぐ虫と蛙など)	一九		
○見たことをことばや身体で表現する。(桃太郎)	一〇	○劇あそびをする(おやゆび姫)	一九		
○制作をする(人形劇)	一〇				
○劇あそびをする。(く)	一〇				
○運動会でこする。	一〇				
○音に反応して機敏な動作をさせて見る。	一〇				



園の研究の歩み

阿部明子

整理してみた。記録の内容としては視聴中の状況ならびに教師の指導経過を事前、視聴中、事後、発展、評価にわけて記録する。また視聴以前の問題として、画面の鮮明度や放送内容の程度、用語、技術についても記録する。昨年五月から十月までの記録を集計したものを見ると次のようである。

- 1、視聴した番組（略）
- 2、画面の鮮明度並びに電波の状況
- 3、視聴中の状況並びに指導（第四表）
- 4、事後指導並びに発展（第五表）
- 5、放送内容（程度、用語、技術）（略）

このようにして受け入れた視聴内容を子どもたちはどのように消化して身につけているであろうか。絵画表現を通じて実験考察を試み、興味ある結果を得ている。その点については「マス・コミと児童教育」を参考されたい。

（広島大学付属幼稚園）

私はも創園以来八年、もう少し理由のせたり、途中で視聴を中止することも再々あつたが、現在では明るい環境で快く視聴出来るようになった。

間工夫と努力を重ねた。最初は暗室で見せたり、途中で視聴を中止することも再々あつたが、現在では明るい環境で快く視聴出来るようになった。

まず私どもがとりあげたのは、保育する相手の子どもたちが、本質的にどのような子どもたちであるか、つまり、子どもたちを知らないで保育することは出来ないと考え、個人式知能テストを施行することになりました。無論、知能検査にもそれぞれの特長があり、欠点のあるのはわかっていたのですが、これほど一般化され標準化されたもの、すなわち、科学的な操作をもつたものは、ほかに見当らず、手はじめに取りあげたわけです。研究所へ足を運びテスト施行を参観させていただいて、施行者としての態度や技術を学び、それぞれの担任の子どもたちをテストいたしました。

個人個人に接してゆっくり観察したことによって、子どもたちとの交流がスムーズになつたのはいうまでもなく、日常かくれていた子どもたちの能力を見出したことが